

# いちにのさんしん

Ichi • Nino • Sanshin

No. 78

2022.2.1



作品名:「オーロラ～光のカーテン～」 撮影地:「カナダ イエローナイフ」 撮影者:「諸石 奈々」

## CONTENTS

さんしんニュース	2
トピックス	3
特集「骨粗鬆症と寿命について」	4
医学雑学「がん地域連携クリティカルパスについて(第3回)」	5
管理栄養士がつくる季節のレシピ	6
薬の豆知識・香椎原病院だより	7

### 病院理念

病人のための病院

### 病院基本方針

1. 質の高い医療の追求
2. 居心地の良い環境の提供
3. 心のこもったサービスの実践

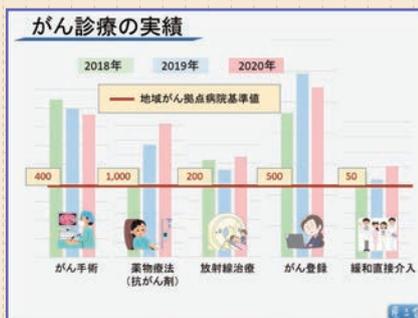
## 第20回 原三信病院 地域医療連携情報交換会を開催しました

医療連携課 課長 加藤 宗一郎

当院では、地域の医療機関の先生方との情報交換・交流を目的として、平成13年から毎年11月に地域医療連携情報交換会を開催しております。昨年度は新型コロナウイルス感染症が拡大した影響で開催することができませんでしたが、今年度は令和3年11月15日に第20回地域医療連携情報交換会をWEBにて開催させていただきました。

今回は、令和3年4月に当院が地域がん診療連携拠点病院に指定されたことを受け、江口徹 副院長より「地域がん診療連携拠点病院指定について」、横溝晃 泌尿器科主任部長より「ロボット支援手術の導入から現在までの軌跡」、寺嶋廣美 放射線科顧問より「放射線治療とハイパーサーミアの有用性の紹介」というテーマで講演を行いました。

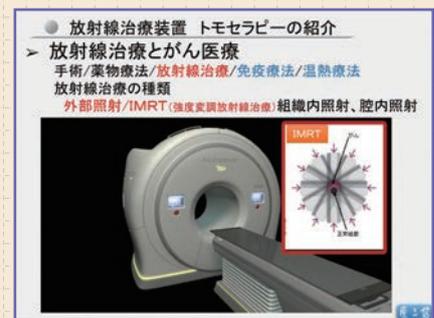
今後も地域の医療機関との連携を強化しながら、より良い診療を提供できるよう取り組んでまいります。



▲ 当院のがん診療の実績



▲ 「ダヴィンチ」による当院の手術症例数



▲ 放射線治療装置「トモセラピー」の紹介

## 榎田神社敬神婦人会様より、「タオル地帽子」をご寄贈いただきました

がんの患者さんは化学療法の治療過程で、髪の毛が抜けるなどの副作用に悩まされます。そんな患者さんのお役に立てないかと、敬神婦人会の皆さまが『タオル地帽子』を手作りされ、毎年ご寄贈していただいております。

今年度も、会長の井上未枝子様、副会長の大須賀照代様はじめ5名の方にご来院いただき、手渡しでご寄贈いただきました。心を込めて作っていただいた帽子は、患者さんのために大切に使用させていただきます。本当にありがとうございました。



## 第27回 原三信病院医学総会を開催しました

原三信病院では毎年10月頃の木、金、土曜日の3日間に、当院で行われている医学及び病院医療全般に関する学術発表会「医学総会」を開催しています。木曜日と金曜日は日中の業務終了後に院内の会議室で発表を行い、土曜日の午後は院外の会議室で開催しています。また、土曜日は院内の医師による教育講演と院外より招聘した講師による特別講演もあります。

この医学総会は、様々な職種(医師、看護師、技師、事務など)において学術活動を啓発するとともに、発表の機会を設けることにより職員間の交流を図ることを目的としています。医学的な発表のみならず、検査や事務における業務効率の改善などに関する発表もあり、病院の運営にも貢献しています。教育講演では最新の医学の話題を発表いただき医学知識の向上を図っています。特別講演では医学的な話題もありますが、教育問題から冬山登山の話など幅広いテーマでの講演が行われます。



循環器科 主任部長  
第27回 原三信病院医学総会  
準備委員会 委員長

市来 俊弘

## 院内会議室(18日・28日)



▲ 院内での学術集会風景

## アクロス福岡(3日目)



▲ アクロス福岡での学術集会風景



▲ 腎臓内科 部長 満生浩司 医師



▲ 九州医療センター 救命救急センター長  
野田英一郎 医師

令和3年度の第27回医学総会は10月21日～23日に開催されました。院内からは、当院での新型コロナウイルス感染症の検査体制構築や、院内で投与される薬剤の確認業務の改善などに関して13演題の発表がありました。23日はアクロス福岡の国際会議場で開催されました。教育講演では当院の腎臓内科部長の満生浩司先生に「変わりゆく慢性腎臓病治療」と題して、慢性腎臓病の最新の治療法について講演をしていただきました。特別講演では、福岡県の新型コロナウイルス感染症調整本部 副本部長も務めておられる九州医療センター 救命救急センター長の野田英一郎先生に「福岡県はCOVID19にどう対応してきたか」と題して、新型コロナウイルス感染症対策の最前線の状況についてご講演いただきました。今年も大変有意義な発表会であったと思います。

この「医学総会」を通して、職員一人ひとりが科学的な視点を持ち、また常に学ぶ姿勢を持つことにより、日進月歩の医学・医療に対応し、患者さんのためによりよい病院となるよう取り組んでいきたいと考えています。

特

集

# 骨粗鬆症と 寿命について



整形外科 部長  
高崎 実

## <骨粗鬆症とは>

骨粗鬆症とは、骨の量が減り、質も劣化して、骨の強度が低下して骨折を起こしやすくなった状態です。骨粗鬆症になっても痛みは無いのが普通ですが、ちょっとしたはずみで背中を骨折したり、転んだ時に手首、太ももの付け根などの骨折をしやすいようになります。以前は、骨粗鬆症は骨折のリスクが高くなるだけと思われていましたが、実は骨粗鬆症の患者さんが、背骨や足の付け根の骨折を起こすと寿命が短くなることもわかってきています。長生きするためにも、骨粗鬆症の検査や治療を適切に行うことは重要です。



## <骨粗鬆症によって発生する代表的な骨折>

骨粗鬆症によって発生する代表的な骨折は、脊椎圧迫骨折(図1)と大腿骨近位部骨折(図2)です。骨粗鬆症の患者さんが、一度どちらかの骨折を起こすと、次にどちらかの骨折を起こす確率は骨折前の3~4倍となることがわかっています。また、大腿骨近位部骨折を起こすと、骨

折後1年後までの死亡率はわが国で10%強、海外では11~30%程度と報告されています。実は、この骨折はがんよりも生命予後が悪い(寿命が短くなる)場合があります。

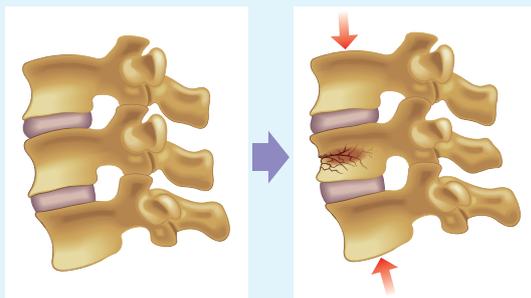
また、脊椎圧迫骨折は「いつの間にか骨折」といわれていたこともあり、骨折した患者さんの3分の2程度は症状がほとんどないといわれています。しかし、1~2個骨折しただけでも生命予後が少し悪くなり(寿命が少し短くなり)、3個以上骨折すると10年後の生存率(10年後まで生きている確率)が骨折の無い人に比べると60%程度まで減少するとの報告もあります。

## <骨粗鬆症の治療は長生きするためにも必要>

骨粗鬆症の治療は、健康寿命を延ばすために骨折のリスクを減らすという目的が大きいです。が、実は長生きするためにも必要だということが、だんだんとわかってきました。もちろん、治療をしたからと言って100%予防できるわけではありませんが、現在はより効果の高い骨粗鬆症治療薬が多数増えてきていますので、かなりの確率で骨折発生を抑制できるようになってきています。

長生きするためにも、骨粗鬆症の検査や治療を適切に行うことをお勧めします。

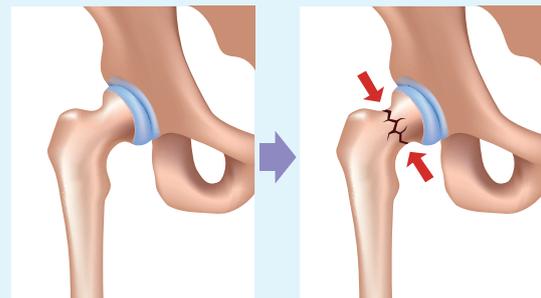
図1 脊椎圧迫骨折



正常

骨折

図2 大腿骨近位部骨折



正常

骨折

# がん地域連携クリティカルパス について (第3回)

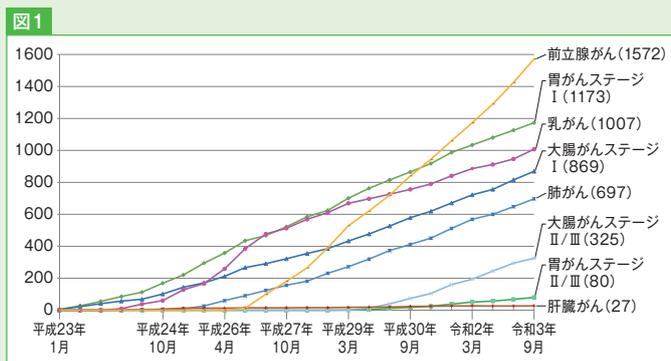
医療連携課 課長  
加藤 宗一郎

## ★がん地域連携クリティカルパスとは？

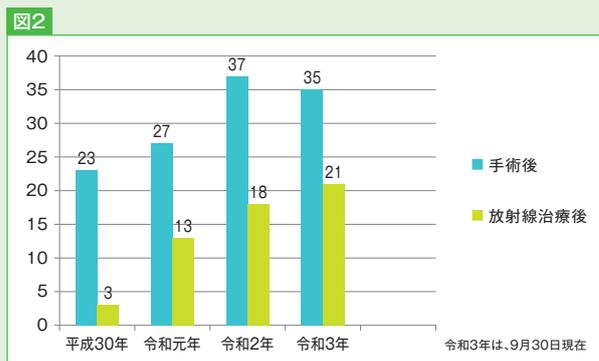
福岡県では、がん診療連携拠点病院・福岡県医師会・かかりつけ医(連携医療機関)等の連携により、患者さんに分かりやすく、安全で質の高い医療を目指して、「がん地域連携クリティカルパス」(以下、連携パス)の活用を推進しております。連携パスとは、かかりつけ医とがん診療連携拠点病院等の医師が、患者さんの治療経過を共有し、患者さんにとってより良い医療提供を行うためのツールです。

連携パスを運用することで、患者さんはかかりつけ医とがん診療連携拠点病院の二人主治医制による安心感を持てる、患者さんの病状理解の助けになる、かかりつけ医に通院できるため通院時間や待ち時間等の負担を軽減できる等のメリットがあります。

福岡県内の連携パスの運用数は年々増加しており、中でも平成26年10月に運用が始まった前立腺がんの連携パスは運用数が一番多くなっており(図1)。当院でも運用状況は拡大傾向です(図2)。今回は、前立腺がんの連携パスについてご紹介します。



▲ 福岡県の各病院のがん地域連携クリティカルパスの運用数



▲ 当院における前立腺がん連携パスの運用数

## ★前立腺がん連携パス

前立腺がんの連携パスは、全摘手術後、または放射線(入院)治療後の方が対象です。

治療後の経過が安定していれば、10年間、連携パスを用いて、かかりつけ医によるフォローアップが可能です。もし、術後合併症・再発が疑われる場合は、当院と速やかに連携を図り、精密検査・治療を実施いたしますので、ご安心ください。

### 福岡県がん地域連携運用パスツール 「私のカルテ」 ～前立腺がん連携パス～ (一部抜粋)



前立腺がんは、採血のみで実施できるPSA検査や尿検査等で経過観察が可能なため、治療の経過が安定している場合、かかりつけ医に通院しながら経過観察が可能です。

### 共同診療計画書 (医療者用)

計画策定病院名 原三信病院 担当医 \_\_\_\_\_  
 かかりつけ医名 \_\_\_\_\_ 担当医 \_\_\_\_\_

項目	病院	かかりつけ医													
		退院時	術後1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年			
達成目標 連携により右記の目標を達成する		手術後後遺症への対応													
		手術後後遺症・再発の早期発見													
連携・連絡 術後連携の説明 連絡先の確認		手術後後遺症・再発等発生の場合、必要に応じて連絡													
		<input type="checkbox"/> 術後連携パスの説明													
		<input type="checkbox"/> 連絡先の確認													
教育・指導 生活指導 術後後遺症の確認 尿失禁 尿逆流 勃起障害 リンパ浮腫 その他															10年間で再発なければ経過観察終了
診察・検査															
全身状態 診察 問診 視触診															
検査 PSA(採血) 尿検査			少なくとも3ヶ月ごと			少なくとも6ヶ月ごと					少なくとも12ヶ月ごと				
バランスの有無確認															

この診療計画は、病状や経過によって変更されることがあります

管理栄養士がつくる  
季節のレシピ

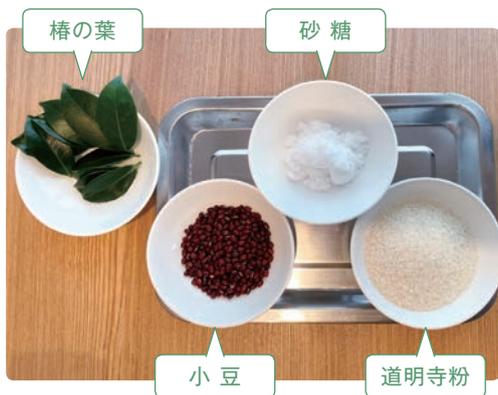
# 椿餅



栄養科  
古賀 玲央

## 【材料】7個分

道明寺粉	110g
砂糖	22g
ぬるま湯	180cc
小豆	60g
グラニュー糖	60g
シロップ	適量
椿の葉	14枚



## 栄養成分 (1個)

エネルギー  
**238kcal**

たんぱく質 ● 12.9g  
脂質 ● 1.1g

## 作り方

- 1 小豆を水洗いし、水とともに鍋に入れ、沸騰させる。茹でた小豆をざるにあげ、水をかけながらすりつぶす。
- 2 ざるの下に落ちたものを、水をかけながら裏ごし器でこす。ふきんでかたく絞り、生あんにする。
- 3 生あんとグラニュー糖を火にかけて、こしあんを作る。あんをすくって落ちてこない固さまで炊き上げる。
- 4 小豆こしあんが冷めたら、丸めてあん玉にしておく。
- 5 分量のぬるま湯に道明寺粉を加え、ラップして15分ほどおいて蒸らす。
- 6 電子レンジで600w7分加熱。砂糖を加え、さっと混ぜる。
- 7 粗熱がとれたら生地にあんを包んでいく。生地が冷めて固くならないよう、シロップをつけて素早く作業。
- 8 椿の葉に包む。



## 小豆



世界中で常食されている豆は、炭水化物とたんぱく質に富み、エネルギー源として欠かせない食品です。中でも日本人にとって馴染み深い小豆について紹介します。

小粒のものを小豆、大粒のものを大納言といいます。小豆の外皮には腸を刺激し便秘予防に役立つサポニンのほか、抗酸化作用

のあるポリフェノール類を多く含みます。甘いあんにして利用されることが多いですが煮物にもおすすめです。

### 【保存方法】

茹でた小豆は汁ごと密封袋に入れて冷凍保存。使う時は自然解凍で。

# 薬の豆知識

## 湿布薬

今回は腰痛や関節の痛み、打撲や捻挫などの怪我の痛みで使用される湿布薬についてお話したいと思います。



### ● 2種類の剤形

湿布薬には、大きく分けると2種類の剤形があります。

**パップ剤:**厚みがあり、水分を多く含んでいるため、貼り付け時に冷たく感じる。テープ剤に比べて粘着性が低いため皮膚への刺激が少ない。

**テープ剤:**薄くて伸縮性があり、比較的粘着性が強いいため、関節などの動きが激しい部位に適している。

### ● 冷湿布と温湿布

湿布薬には「冷感」タイプと「温感」タイプがあります。

**冷湿布:**筋肉痛やぎっくり腰、捻挫など、急性の痛みの緩和に効果的。

**温湿布:**腰痛や肩こり、神経痛など、慢性的な痛みにも効果的。



湿布薬の中には紫外線に注意しなければならないものや、1日に貼れる枚数に制限があるもの、人によってはアレルギーや持病などで使えないものもありますので、たかが湿布だから…と他の人にゆずったりしないようにしましょう。

何か気になることがあれば薬剤師にご相談ください。



薬剤科  
川波 詩絵



KASHIIHARA

## 香椎原病院だより

### 安心して暮らせる生活を支援します「香椎原病院 訪問看護ステーション」

住み慣れた家で暮らしていても、健康を害し病気になることもあり入院することもあります。やがて退院する頃になって自宅に戻られても、病気のために継続した治療が必要な方もたくさんいらっしゃいます。わたしたち香椎原病院訪問看護ステーションでは、24時間体制で在宅医療を提供できるスタッフが、地域の医療機関と連携をとりながら患者様が生活されるご自宅へ訪問しています。わたしたちの思いは、在宅生活の患者様が安心して毎日を過ごしていただけることです。お困りのことがございましたら、お気軽にご相談ください。



#### お問い合わせ

香椎原病院 訪問看護ステーション

TEL 092-662-1349 (直通)

月~金 9:00~17:00 土 9:00~12:30

#### ご利用できる訪問看護の主なサポート内容

- ♥ 病状管理(かかりつけ医と連携して治療・療養を支援します)
- ♥ リハビリテーション(看護師、リハビリスタッフが専門的ケアを提供します)
- ♥ 相談支援(医療や介護の相談から、医療機関との連携をお手伝いします)

# 病院及び関連施設のご案内



日本医療機能評価機構  
認定病院

## 原三信病院



〒812-0033 福岡市博多区大博町1-8  
☎092-291-3434 FAX 092-291-3424  
URL <https://www.harasanshin.or.jp>  
✉ info@harasanshin.or.jp



### ●診療時間

月～金曜日 9:00～13:00 14:00～17:00

※土・日・祝祭日および12月30日～1月3日はお休みです。但し、急患の患者さんは、救急外来にて診察いたします。また、12月29日は午前診療のみとなります。

### ●診療科目

総合診療科	循環器科	消化管内科	肝胆膵内科
血液内科	呼吸器科	腎臓内科	糖尿病内科
脳神経内科	外科	胸部外科	乳腺内分泌外科
整形外科	脳神経外科	泌尿器科	婦人科
放射線科	麻酔科	歯科・口腔外科	
睡眠呼吸障害センター	健康管理センター		
病理診断科			

無料

## シャトルバスのご案内



原三信病院 ↔ 博多港 を運行中。

患者さんはもちろん、ご家族の方やお見舞の方もご利用下さい。

※詳しくは病院内の時刻表をご覧ください。



香椎原病院 ↔ 千早駅西口 ↔ 吉塚駅東口

原三信病院 間を運行中。

### シャトルバス時刻表

	香椎原病院発	千早駅西口発	吉塚駅東口発	原三信病院着	原三信病院発	吉塚駅東口発	千早駅西口発	香椎原病院着
午前	9:30		→	10:00	10:10	10:20	10:40	10:50
午前	11:25	11:35	11:55	12:05	12:15	12:25	12:45	12:55
午後	13:40	13:50	14:10	14:20	14:30	14:40	15:00	15:10
午後	15:40	15:50	16:10	16:20	16:30	→		17:00

運休日：日曜・祝日・年末年始

※時刻、路線は変更することがございます。詳しくは受付にてお尋ね下さい。



## 原三信病院附属 呉服町腎クリニック



〒812-0035 福岡市博多区中呉服町1-25  
☎092-262-2828 FAX 092-262-2853  
✉ gofukumachi@harasanshin.or.jp

### ●透析シフト

月～土曜日 9:00～(昼透析)  
16:00～(夜透析)

※透析は週3回(月水金・火木土)の昼と夜の4シフトで行います。

●診療内容 人工透析

## 香椎原病院



〒813-0011 福岡市東区香椎3-3-1  
☎092-662-1333 FAX 092-662-1330  
URL <http://www.kashiihara.or.jp/>

### ●診療時間

月～金曜日 9:00～13:00  
14:00～17:00

### ●診療科目

内科・リハビリテーション科・循環器内科



## 原三信泌尿器クリニック



〒812-0034 福岡市博多区下呉服町2-13 双和ビル2F  
☎092-283-5121 FAX 092-283-5131

### ●診療時間

月～金曜日 9:00～13:00  
14:00～17:00

●診療科目 泌尿器科

## 訪問看護ステーション おおはま



〒812-0034 福岡市博多区下呉服町4-13  
☎092-262-4626 FAX 092-291-3046

### ●受付時間

月～金曜日 9:00～17:00

### ●提供サービス内容

訪問看護・訪問リハビリ  
居宅介護支援(ケアプラン作成)